

様式6 (第12条第1項関係)

平成26年4月9日

文部科学大臣 殿

(所在地)	名古屋市千種区不老町
(大学名)	国立大学法人名古屋大学
(代表者名)	総長 濱口 道成
	(記名押印又は署名)

平成24年度国立大学改革強化推進補助金 実績報告書 (繰越分)

事業名称	アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速度的推進	
補助事業の実績等	別紙のとおり	
補助事業実施期間	平成25年 2月21日 ~ 平成26年 3月31日	
事業推進担当者	氏名	所属・職名
事業推進代表者	ハマグチ ミチナリ 濱口 道成	名古屋大学・総長
事業推進代表者	マツダ マサヒサ 松田 正久	愛知教育大学・学長
事業推進責任者	ウチダ アツマサ 内田 淳正	三重大学・学長
会計事務担当者名	所属・職名	連絡先(電話番号、FAX番号、e-mailアドレス)
ノダ アキヒコ 野田昭彦	国際部国際企画課長	TEL:052-789-2042,FAX:052-789-2045 E-mail:noda.akihiko@adm.nagoya-u.ac.jp

補助事業の実績	<p>本事業は、今までの国際化の取組を一層加速させ、アジアを中心とする世界のあらゆる地域で活躍する人材を育成する体制を整備する取組であり、「国際化支援組織整備」、「学内教育・運営組織との連携強化」「海外拠点整備」、「東海地区大学連携」を実施している。</p> <p>これらの事業を円滑に進めるため、平成 24 年度は名古屋大学、愛知教育大学、三重大学に国際人材育成と大学連携に必要な以下の設備導入の手続を開始し、平成 25 年度までに設備の整備を行った。</p> <p>① テレビ会議システム 13 式 (内訳：システム本体、ディスプレイ ISDN インターフェース、接続ソフトほか)</p> <p>② 教育情報発信システム 3 式 (内訳：大型ディスプレイ、スピーカー、マルチチャンネルアンプほか)</p> <p>③ アジア連携高等教育機構音響設備整備 1 式 (内訳：音響設備、プロジェクター、スクリーンほか)</p> <p>④ アジア内視鏡教育センター設備 1 式 (内訳：内視鏡システム、内視鏡トレーニングシステム、洗浄システムほか)</p> <p>⑤ 疾病制御研究者育成システム 1 式 (内訳：3D マイクロ X 線 CT 装置、MRI システム、遠隔細胞診断・教育システムほか)</p> <p>⑥ 国際交流センター電子情報掲示板等 AV 設備 1 式 (内訳：インフォメーションディスプレイ、インターフェース拡張ボードほか)</p>
補助事業に係る具体的な成果	<p>本事業を円滑に進めるため、平成 24 年度は名古屋大学、愛知教育大学、三重大学に国際人材育成と大学連携に必要な以下の設備導入の手続を開始し、平成 25 年度までに設備の整備を行った。</p> <p>① テレビ会議システム 13 式 名古屋大学、愛知教育大学及び三重大学の大学間連携事業担当セクション等にテレビ会議システムを設置した。今後、本事業をより円滑に行うことができる。また、新海外拠点 (インドネシア、ミャンマー、ラオス) にテレビ会議システムを設置したため、既設海外拠点 (米国、中国、ドイツ、ウズベキスタン、モンゴル、ベトナム、カンボジア) にテレビ会議システムを繋ぎ、各海外拠点間の情報伝達を円滑に行うことができる。</p> <p>② 教育情報発信システム 3 式 大型ディスプレイなどで構成される本システムを名古屋大学、愛知教育大学及び三重大学それぞれのキャンパス内に整備した。本システムを活用し、留学生向けの情報提供を行うことや、多言語によるリアルタイムの情報発信を行う。システムの設置場所を学生及び教職員が集まるコミュニティの場 (World Zone) として提供することによって、大学キャンパスの国際化の推進にも役立つことが可能となる。</p> <p>③ アジア連携高等教育機構音響設備整備 1 式 名古屋大学法学研究科を含む文系ゾーンの講義室やセミナー室に、プロジェクターや音響設備、スクリーンの整備を行った。アジアを中心とする教育研究交流が進むなか、今後留学生の受入や、海外へ留学する学生は増加していく状況にある。学生受入には短期間のサマーセミナーやサマースクールなどに加え、日本人学生の短期海外派遣研修も実施しており、学生への講義や学生自身の英語によるプレゼンテーション能力を向上に活用できる。また、外国から研究者・実務家を招聘した際に、講演会・研究会にも活用できる。</p> <p>④ アジア内視鏡教育センター設備 1 式 名古屋大学医部附属病院「内視鏡センター」に、内視鏡システム、内視鏡トレーニングシステム、洗浄システムなどの設備整備を行った。アジアの臨床を経験している若手医師に対して、内視鏡などの消化器医療機器を用いて、高度の診断・治療ができる消化器内視鏡医に育成するため、最新の設備を有するトレーニングセンターを附属病院に開設する。また、自国においても内視鏡技術が学べるよう支援体制及び設備を整えることにより、若手研究者の育成、ひいてはアジア各国での中心的リーダーの輩出に</p>

も繋がる。

⑤疾病制御研究者育成システム 1式、執行額 149,000,000円

名古屋大学医学系研究科に、3DマイクロX線CT装置、MRIシステム、遠隔細胞診断・教育システムなどの設備整備を行った。アジア諸国の国民の脅威であり続けている、SARSを始めとする難治性コロナウイルス、H5N1鳥インフルエンザウイルスなどの難治性ウイルスに加えて、結核性・非結核性抗酸菌感染症、破傷風菌など、これら疾病の原因解明・制御研究と研究者育成の教育を、モデル動物を用いてアジア諸国と協調して行う上で、経時的な病態の追跡が可能となる。若手研究者の育成は、アジア各国での中心的リーダーの輩出にも繋がる。

⑥国際交流センター電子情報掲示板等AV設備 1式、執行額 20,499,780円

三重大学国際交流センターに、電子情報掲示板等のAV設備を整備した。本設備を活用することにより、国際交流を始めとする大学の活動、奨学支援、就職及び留学等の情報を「見える化」して、効果的かつ迅速に発信することにより、大学への理解や国際意識の啓発を図る。また、視聴覚室、演習室、コミュニティールームには、マルチディスプレイなどを配置し、学生のプレゼンテーション能力の訓練や各種イベントが実施できる環境を整備することにより、大学キャンパスの国際化にも役立つことが可能となる。